

「心のうち」 ～あなたは何を想う～

創11：1～9

「くちではなあ・・・」この言葉からどんなことを連想するでしょうか。これは心の中の状況を言っている言葉です。私たちの心と言っている言葉がどれほどずれているかがわかるのです。(創11：1～9)「さあ、われわれは町を建て、頂が天に届く塔を建て、名をあげよう。われわれが全地に散らされるといけないから。」(4)安定したために、自分の物をとられたくないという執着がはじまったのです。自分の立場を守るために自分の心と、してよいこととしてはいけないことを使い分けようになりました。ヘブル語の原語では「ことば」のことを「くちびる」と言っています。そしてこの箇所では「ことば」と「くちびる」を分けて使っています。当時、「口」と「心」は一つでした。多少の誤差はありましたが、民は一致していたのです。「町」ということばには「おそれによる興奮状態」という意味があります。「町を建てよう私たちが一つであるために」と言っていますが、その心には神や敵国に対する恐れがあったのです。潜在意識と顕在意識を使い分けるとは恐れがあるからです。私たちは恐れから悪くなります。「こうなるのではないか」「あの人と向き合えばこうなるのではないか」恐れや不安があなたの態度をつくらせているのです。心の中のことをそのまま伝えないのは、そのまま伝えたら相手が自分に牙を向くかもしれないと思うからです。だからといってなんでも心の中のことを言って生きればよいのかというとそうではありません。100%神様の心を持つことはできません。自我があるからです。町・・・あなたが築こうとするものが恐れによる興奮状態で始めていることがいけないと言っています。だから民たちは恐れたとおりに散らされてしまいました。多くのものを流す家と外からの外敵から守る家では全然違います。恐れによる興奮状態であなたのしようとしていることを進めてはいけません。始まりが肝心です。神と共にでなければどんなに新しいことをしてもよいことにはなりません。「あなたがたが足の裏で踏む所はことごとく、わたしがモーセに約束したとおりに、あなたがたに与えている。」(ヨシュア1：3)聖書の中でこういわれた人が出来た理由は、神様と共にいるという決心をしたからです。主さえいれば恐れがなかったのです。ことばによって散らされた出来事は、ノアの時代から一代しかたっていないセムの時代に起こりました。洪水で滅ぼされることはありませんでしたが、言葉によって罪の道を進んでしまったために、分裂と混乱が与えられました。あなたの家族は混乱していませんか。一つの口つまり心が与えられていますか。神と一つになっていけば集った人は一つになります。(ローマ10：6～)心と言葉が一つであることが大切です。言葉を制御しなさいと言いますが、言葉を制御するためには心を制御しなければいけません。ダビデとミカル・・・ミカルはサウルの娘でありダビデの妻でした。ミカルはダビデが戦争で勝って喜んで、裸になっておどっている姿をみて心の中であざ笑ったのです。そのため彼女は一生不妊の女でした。夫であるダビデを愛さなかったのです。言葉に発言できないあなたの心の思いが悪いと言っているのです。言葉に発言できないことを心の中で思わないようにしなければいけません。とはいつても人は思うのは思ってしまう。思ったときにどうするかです。自分で決めれば心は変えられます。心の中で自分の思いとそうではいけないという思いとやりあうことが大切です。あなたの心を悪い人ばかりにしないでください。口の実を神様と一つにしてください。そうでなければ私たちが神様と一緒にいる決意がムダになってしまいます。(詩62：4～)恐れる前に心にキリストを。**あなたの心にキリストを**置いてください。あなたを欲に導く悪魔の言葉は「甘い蜜」です。しかし「・・・罪は戸口で待ち伏せして、あなたを恋い慕っている。だが、あなたは、それを治めるべきである。」(創4：7)人はそれを制さなければいけません。私たちは心の思いを制御しなくてはいけません。制御しきれないでいると私たちの思いは神様からかけ離れ、いつの間にか全く違うところに歩むようになってしまいます。神様がいざ降りてきてあなたを見たら全く別のところにいた・・・それではいけません。いつもあなたは神様の前にいなくてはいけません。心の王座を神様に委ねないと自己中心になってしまいます。自己中心が好きなのは悪魔です。あなたはあがなわれ買い取られたのですから、心の王座にはイエス様しかいません。心の中心にイエス様を置いていないと、あなたの思いが物事と周りを腐らせてしまいます。すると口では言ってもその実はおかしなことを言うようになってしまいます。口ではへつらって笑っても心の中は汚い・・・でもそれはみんな見抜きます。偽りとはそのようなものです。クリスチャンはそれではいけません。「はい」は「はい」「いいえ」は「いいえ」と言う、そして心の中で悪いことを思うのであれば、それを自らで戦えばよいのです。思った心を「主の御名によってサタンよさがれ」と言わなくてはいけません。それがこの一年の祝福の秘訣です。欲によって罪は生まれます。罪が始まりではないのです。だから欲が出たときに欲と戦えばそれですむのです。自分を中心にしたいから人のせいにしたいそれが欲です。溜め込んでひどい言葉になって悪態をつくのではなくて、心に思ったことをすぐに整理して、語るべきことはイエス様の愛によって語り笑顔で済ますようにしていけばあなたはダビデのように祝福と恵みが追ってきて、あなたのまいた種から多くの実を得るようになります。今年一年良い種をまき、ぜひ刈り取っていきましょう。(要約者：岩崎祥誉)